

## 目的

**先行研究:** 「「つまり」は、聞き手に理解しやすくなるように先行部を解釈すると後続部のようになることを示す」 (日本語記述文法研究会2009, p.95)

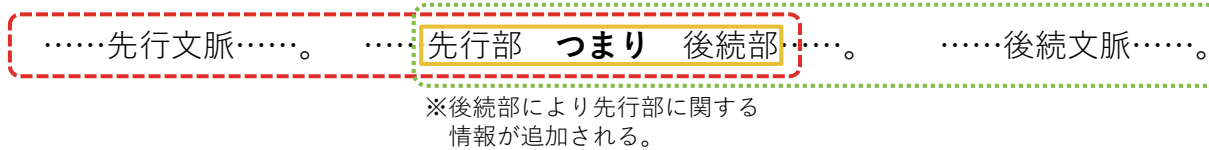
- |   |  |
|---|--|
| (1) 実家では甲斐犬、 <b>つまり</b> オオカミのような毛色と立ち耳が特徴的である中型の日本犬を飼っている。  | … 甲斐犬についての知識が増え、内容がイメージしやすい文。                                  |
| (2) 隣家から甲斐犬、 <b>つまり</b> 伝統的に現在の山梨県の辺りで飼育されていた獵犬が柵を越えて家の庭に侵入し、ポチと仲良くじゃれていた。  | … 甲斐犬についての知識は増えるが、換言の意図が分からず分かりにくい文。                           |
| (3) 隣家から甲斐犬、 <b>つまり</b> 伝統的に現在の山梨県の辺りで飼育されていた獵犬が柵を越えて家の庭に侵入し、ポチと仲良くじゃれていた。南アルプスの岩場を駆け巡って狩りをしてきたため遺伝的に飛節が発達しており、跳躍を得意とする甲斐犬にとって、庭を区切る程度の柵を飛び越えることなど訳もない。何度も侵入を繰り返したことで、ポチもすっかり慣れている。 | … 甲斐犬についての知識が増え、その知識のおかげで分かりやすい文章。<br>(後続文脈があることで、換言が自然なものとなる) |



換言について分析する際は、**文脈も考慮する必要がある。**

文脈も考慮して換言を分析し、**換言は、先行部に対する情報の追加であること**  
**後続部が文脈の内容に裏付けられているか否かにより三つの換言があること** を述べる。

## 換言の様相



### 先行部の理解を促す換言

文脈から独立していると認められる換言であり、先行文脈・後続文脈の内容に関わらず、後続部は、**先行部の理解を促進する追加情報**となる。

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| (4) 『シェイクスピアの大喜劇時代といわれる』は、だいたい『の三十歳の時 <b>つまり</b> 』より九十四年から六年ぐらいで、機智の喜劇、たくらみの、ロマンチック、などをしたが、この『の』はやはり『真夏の夜の』で、特に三つの、人物にしているフォルスタッフなどは、上類のない、的性格である』<br>BCCWJ サンプルID: OB3X_00110 筒井康隆(著)『文学部唯野教授』 | … 「の三十歳の時」は西暦何年であったか、知識が増える。 |
| (5) 明治維新以来、 <b>官軍つまり</b> 天皇のために死んだ人のみを、「神」として祀り、 <b>賊軍つまり</b> 天皇に犯行して死んだ人は排除する。<br>BCCWJ サンプルID: PB53_00218 平山知子(著)『家裁弁護士 ミモザの花言葉のように』  | … 「官軍」「賊軍」についての知識が増える。       |

- ※ 換言されなくても、先行部に関する読み手の知識が豊富である場合など、文の理解には影響を及ぼさないことがある。
- ※ 前後の文脈との間に意味的な連続性を認めると、換言が先行部の理解を促す以上の働きをする。  
(4) ……この『の』はやはり『の』九五~九六年頃に執筆された『真夏の夜の』で、その頃世界的には……

### 先行文脈に支えられる換言

先行文脈があることで自然な換言となり、後続部は、**先行文脈に支えられた追加情報**となる。

- (6) 物件価格の八十%までしか**融資**を受けられない、と聞いてがっかりしている人もいるだろうけど、チョット待って。残りの二十%は「**頭金**」で払えばいいのだ。じつはこの頭金を入れるということが、**買う人、つまりローン返済する人**にとっては、たいへんラクになることなのだ。  
BCCWJ サンプルID: PB33\_00046 くらく持ち家委員会(著)『ゼット失敗しないマイホーム購入大満足ガイドブック』

先行文脈: 高額商品を現金一括払い以外の方法で購入することが説明されている。  
(「物件」「融資」「頭金」等の単語 → **ローン**による借入れ)

後続部: 「**ローンを返済する人**」  
・先行文脈の内容を踏まえたもの。  
・この情報の追加によって先行文脈の内容が確認され、まとまりのある文章として理解が深められる。

- (7) つまり、人間の意識を越えたところに、**真実の世界**がある。(略) **自分を忘れた時つまり、自意識というものがなくなってしまった時**に、「万法に証せらるるなり」です。  
BCCWJ サンプルID: LBp1\_00010 栗田勇(著)『道元いまを生きる極意』

先行文脈: 哲学的に「自己をならぶ」とは「自己をわするなり」とされ、自分を考えていくためには、思い切って**自分自身や、自分を大事に考えるという我執を捨てる**ことが求められる、と説明されている。

後続部: 「**自意識というものがなくなってしまった時**」  
・先行文脈の内容を踏まえたもの。  
・この情報の追加によって先行文脈の内容が確認され、まとまりのある文章として理解が深められる。

- ※ 先行文脈がなければ、先行部を分かりやすくする追加情報とはならないことがある。

### 後続文脈に支えられる換言

後続部は、**後続文脈の内容に支えられた追加情報**であり、後続文脈があることで自然な換言となる。

- (8) 本当に強い人とはどんな人だろうか? 誰がきても負けない人? ボクシング世界チャンピオン? K1世界チャンピオン? 否。強い人とは**負けない人、つまり戦わない人**である。人はそれぞれなのだ、**同じ土俵に上がる必要はない**。つまり、妻に小言を言われたら、反論せずに寝たフリや子供をだしに**その場から去る**。恋人と喧嘩をする人は恋人があなたに嫌な事をした時に向き合うからだ。遅刻してきたら、「遅刻ムカつくんですけど」と言い、恋人が言い分けしてきたら、**無言でその場を去ろう**。1番いけないのは水掛け論。柳のようになると言。  
BCCWJ サンプルID: OY01\_01398 「Yahoo! ブログ」

先行部: 「負けない人」  
後続部: 「戦わない人」  
後続文脈: 後続部の具体例  
「同じ土俵に上がる必要はない」「その場から去る」

後続文脈における具体例の提示により支えられている後続部「戦わない人」が、先行部に情報を追加し、文章の理解が深められる。

- (9) その調査は**不正受給の可能性のある人(つまり収入の多い人)**を事前にリストアップしていますから、かなりの中するようです。  
BCCWJ サンプルID: LB13\_00069 北見昌朗(著)『パートさんに正社員以上の仕事をしてもらおう本 北見式実践マニュアル』

先行部: 「不正受給の可能性のある人」  
後続部: 「収入の多い人」  
後続文脈: 在職老齢年金は、勤務時間・日数が少ない社会保険非加入者は受け取れるが、フルタイムで働く社会保険加入者は受け取れない。しかし、**フルタイムで働きながらも社会保険に不正に入らなければ受け取れてしまう**。

後続文脈で説明される在職老齢年金の受け取り可否と「賃金の多寡」とにより支えられている後続部「収入の多い人」が先行部に情報を追加し、文章の理解が深められる。

- ※ 後続文脈がなければ、先行部を分かりやすくする追加情報とはならないことがある。

- 先行部の理解を促す換言は**理解上の要請**により、先行文脈・後続文脈の内容に支えられる換言は**文脈上の要請**に沿うものである。  
石黒圭 (2001) 理解上の要請 (一つの表現内容について異なる二つの表現を提示することで受け手の理解を促すために換言が成り立つ) 文脈上の要請 (文章の流れを円滑にするために換言が必要とされる)
- 換言について分析する際、先行部と後続部の関係に注目するだけでは見えないことがある。文脈も踏まえた考察が求められる。

## 今後の課題

**書き手の意図と読み手の思考の展開**を区別した上で、目的を明確にして分析を進める必要がある。

- (3) 隣家から甲斐犬、**つまり**伝統的に現在の山梨県の辺りで飼育されていた獵犬が柵を越えて家の庭に侵入し、ポチと仲良くじゃれていた。南アルプスの岩場を駆け巡って狩りをしてきたため遺伝的に飛節が発達しており、跳躍を得意とする甲斐犬にとって、庭を区切る程度の柵を飛び越えることなど訳もない。何度も侵入を繰り返したことで、ポチもすっかり慣れている。

後続部が後続文脈の内容を踏まえていると考えられ、読み手としてそのように読解すると分かりやすい文章となるが、書き手の意図として正しいかどうか分からない。

### 参考文献・関連URL

石黒圭 (2001) 「換言を表す接続語について——『すな わち』『つまり』『要するに』を中心に——」  
『日本語教育110号』pp.32-41  
日本語記述文法研究会 (2009) 『現代日本語文法7』くろしお出版  
コーパス検索アプリケーション『中納言』  
<https://chuunagon.ninjal.ac.jp/>